

令和元年6月12日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03211

研究課題名(和文) 近畿方言における配慮表現の研究

研究課題名(英文) The Research of Consideration Expression of Kinki Dialects

研究代表者

岸江 信介 (KISHIE, Shinsuke)

徳島大学・大学院社会産業理工学研究部(社会総合科学域)・教授

研究者番号：90271460

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,400,000円

研究成果の概要(和文)：近畿地方での配慮表現の実態を解明するため、大阪市、京都市、淡路島、新宮市・熊野市で各地生え抜きの高齢者を対象に各々約90名ずつの面接調査を実施した。各々の調査結果はその都度、報告書にまとめて刊行したが、大阪市や京都市などの有敬語地域における配慮表現の実態と、無敬語地域の淡路島や熊野灘地域の配慮のあり方を比較することに心がけた。この結果、京都市や大阪市など、都市部ではウチノソトといった意識にもとづいて敬語や配慮表現が使い分けられるが、淡路島や熊野灘沿岸地方は、ウチ社会中心であるため、ウチノソトで使い分けられることが少ないことが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、近畿地方には、有敬語の方言と無敬語の方言があることは知られていた。本研究では、これら有敬語地域と無敬語の地域で、配慮表現に関する多人数調査を実施し、この違いが社会構造の差に基づいているのではないかと仮説を導いた。有敬語方言ではウチノソトといった場面にもとづいて敬語や配慮表現が使い分けられるが、無敬語地域では当該の社会の構成員が相互に親しいため、ウチ社会中心の社会であるため、敬語や配慮表現の使い分けをする必要がない傾向にある。というよりもむしろ、敬語そのものが必要ではないということが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In order to clarify the consideration expression of the Kinki region, we conducted an interview survey of about 90 people each in Osaka city, Kyoto city, Awaji island, and Kumano coastal area, targeting elderly people who had grown from various locations. The results of each survey were published in a report every year. In addition to elucidating consideration expression in honorific areas such as Osaka City and Kyoto City, we made a detailed description of consideration expression of Awaji Island and Kumano coastal area in the No-honorific area. As a result, it became clear that there is a mechanism that serves as a norm of language behavior unique to the No-honorific region, which is different from honorific region such as Kyoto and Osaka City. Although honorific and consideration expressions can be used properly in Kyoto and Osaka based on the awareness of Uchi / Soto, since Awaji Island and Kumanosu coastal area are Uchi society-centered, Uchi / Soto is rarely used properly.

研究分野：日本語学・方言学

キーワード：発話行為 有敬語・無敬語地帯 全国調査 男女差 都市言語 気遣い表現

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

発話行為や発話行動にもとづく配慮表現をテーマとする方言研究は、緒に就いたばかりである。国立国語研究所編(2006)は、その先駆的な存在であり、主要都市で世代差・男女差といった属性にもとづく調査を行い、社会言語学的観点から都市間での比較を行った。また、野田・高山・小林編(2014)は、「配慮表現」を幅広く研究したものであり、通言語学的な変化の視点と同時に共時的視点から日本各地に見られる地理的かつ社会的変異という、主に2つの視点から配慮表現の多様性について言及した。また、山岡・牧原・小野(2010)は、日本語における配慮表現の記述と理論を詳細にまとめている。さらに、三宅・野田・生越編(2012)は「配慮」自体を日本語のみならず、一部、アジアにまで研究枠を広げ、心理・言語行動・場の理論などの観点から多角的に分析・把握できる可能性を示唆した。配慮表現に関わるこれらの先行研究は、まだ地域方言研究の中では本格的に応用され、研究対象として取り上げられてはいない。そこで、本研究では、対人コミュニケーション上の発話行為に重きを置き、近畿各地において配慮場面での発話行為の運用や機能について分析を行う。近畿地方を調査対象にしようとする理由は、京都市と大阪市においても「ハル敬語」に運用上の差が確認できることや、無敬語に近いとされる方言が、大阪府南部や、和歌山県南部、三重県熊野市などに観察され、これらの中には、有敬語地域に隣接する地域がある点である。このような地域間では、配慮表現上、どのような差を導けるのであろうか、興味深く思われると同時にこの差を明らかにしたい。

### 2. 研究の目的

本研究では、近畿方言における配慮表現の特徴について地域差および男女差の観点からその実態を明らかにするため、以下の3点を目的としている

- (1) 近畿方言には、京阪方言のように複雑な敬語体系を有する方言と、無敬語に近いとされる方言が存在する。敬語体系を異にする方言間には配慮表現においても差がみられ、有敬語地域ほど配慮表現もバリエーションに富むと考えられる。この仮説を検証する。
- (2) 対人コミュニケーション上の働きかけには、地域差のみならず男女によってどのような差が現れるのか、調査を通じて、その特徴を浮き彫りにする。
- (3) ことばの運用面に視点を据え、地理的研究を展開する。

### 3. 研究の方法

- (1) 代表者・分担者・連携研究者・研究協力者が京都市・大阪市の2大都市をはじめ、地方の4都市でフィールドワークによる調査を実施する(面接調査・補充調査)。
- (2) 代表者・分担者が中心となり、近畿地方で教育委員会・公民館等の協力を得て、通信調査(一部、留め置き調査を含む)を実施する(通信調査)。

調査準備を経たのち、京都市・大阪市での面接調査を開始する。並行して、通信調査の準備を行い、完了次第、調査を開始する。また、無敬語に近いとされる各都市で面接調査を実施するほか、通信調査を継続する。補充調査とデータ整理を行う。データの入力後、都市調査の結果を統計的分析する。さらに通信調査結果をGISで地図化し、地理空間情報を含めた分析・考察を行う。

### 4. 研究成果

近畿地方の有敬語地域の代表地域として大阪市・京都市、無敬語地域の代表地域として淡路島、熊野灘沿岸(熊野市・新宮市ほか)で70人~90人規模の多人数調査を実施した。これら四地域で実施した調査結果については『近畿方言における配慮表現の研究』と題して、研究成果報告書(1): 大阪地域調査編、研究成果報告書(2): 京都市域調査編、研究成果報告書(3): 淡路島調査編、研究成果報告書、(4): 新宮・熊野地域調査編にまとめた。この報告書での特徴は、調査結果について明らかにするため、各地で協力頂いた方々のお一人お一人のやりとりをすべて文字化し、pdfとして報告書とは別にDVDに収納したことである。また、pdf上の文字化資料はすべて音声リンクを施した。このような経過での資料整理は、これらをベースにして比較や分析を行う際、有効となるであろうし、これらの調査データをまた公開することによって他の研究者が利用できる機会を提供できたはずである。なお、この文字化資料は4つの報告書ともに1000頁を超えており、29年度中には大阪市の報告書をホームページにアップし、広く国民に周知した。今後、残りの報告書についても体裁を整え、随時アップする。平成28年8月に中国南京市で行われた、第14回調査国際シンポジウムで研究発表を行った。また、配慮表現に関する通信調査に全国各地の自治体からご協力を賜り、全国各地の800名をこえる方々から調査票を返送いただいた。これらの地図はGISソフトを用いてほぼ地図化が完了しており、このデータを用いて徳島大学『言語文化研究』に原稿が掲載された。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計14件)

1. 岸江信介「徳島県祖谷地方のことば」『日本語学』、査読無、第37巻7号、2018.7、pp.45-55.
2. 中井精一「日本語敬語：その地域バリエーションと富山県」『人文知のカレイドスコープ』(桂書房)』 査読無、2018、pp.36-49.
3. 松丸真大「1. 古仁屋方言の名詞述語否定形式アラン・ジャネンとその派生用法」『阪大社会言語学研究ノート』 査読無、2017、pp.72-86.
4. 岸江信介「地図作成項目および解説項目：「さつまいも」・「さといも」・「じゃがいも」・「いもの意味」・「切符」・「地図」・「風船」・「知事」・「面白い」・「面白くない」・「しない」・「しろ」・「行かなければならない」・「行くな」・「行ってはいけない」・「来ない」」『新日本語地図(大西、拓一郎編 朝倉書店)』、 査読無、2017、pp.11-14,57,58,65,67,68,70,71,77,78,79,80.
5. 中井精一「日本語敬語の多様性とその変化」『空間と時間のなかの方言(大西拓一郎編 朝倉書店)』 査読無、2017、pp.96-116.
6. 岸江信介「方言分布の実時間比較と見かけ時間比較」『空間と時間のなかの方言(大西拓一郎編 朝倉書店)』、 査読無、2017、pp.262-284.
7. 峪口有香子, 仙波光明, 岸江信介, 久保博雅, 坂田千春「鳴門市の方言」『阿波学会紀要』、 査読無、61、2017、pp.149-160.
8. 塩川奈々美, 岸江信介, 峪口有香子「贈答場面における配慮表現 「つまらないものですが」の使用をめぐる」『言語文化研究』、 査読無、24、2016、pp.109-126.
9. 真田信治「地域語の復権」『日本教育』、 査読無、452、2015、pp.28-29.
10. 真田信治「新しい日本語観に向けて」『日本教育』、 査読無、451、2015、pp.26-27.
11. 岸江信介「三重県の方言」『日本語学』、 査読無、第34巻13号、2015、pp.70-71.
12. Shinsuke Kishie, Yukichi Shimizu and Yukako Sakoguchi「Dialectal Forms Associated with the Word Taiyo (Sun) in Japanese」『Studies in Asian Geolinguistics No.1』、 査読無、2015、pp.37-43.
13. 中井精一「牛の鳴き声の地域差と人々の暮らし」『BIOSTORY』、 査読無、24巻、2015、pp.14-25.
14. 中井精一「地方経済と方言 - 北陸新幹線開業による言語変化の可能性 - 」『日本語学』、 査読無、34巻、2015、pp.14-25

[学会発表](計30件)

1. 中井精一「北陸方言：その研究成果と現状について」、2017年、第162回変異理論研究会、金沢大学(石川県金沢市)
2. Kawaguchi, Yuji, Iwata, Ray, Nakai, Seiichi「Item-based contrastive map: Potato in French, Chinese and Japanese.」Methods in Dialectology XVI(国際学会) 2017年、国立国語研究所(東京都立川市)
3. Shinsuke Kishie, Razaul Faquire, Yukako Sakoguchi, Nanami Shiokawa, Yukichi Shimizu「East-West Opposition with Regard to the Negative Form of Verb in Japan」Methods in Dialectology XVI(国際学会) 2017年、国立国語研究所(東京都立川市)
4. 岸江信介・清水勇吉・峪口有香子・塩川奈々美「Accent in Japanese」アジア地理言語学第1回集会(国際学会) 2017年、東京外国語大学(東京都府中市)
5. 岸江信介・峪口有香子「言語地図の制作」第七回 Jinan 漢語方言研究理論実践研究会(招待講演)、2017年、広州、中国(Jinan University)
6. 岸江信介・峪口有香子「日本における言語地理学とその応用 資料編」第七回 Jinan 漢

語方言研究理論実践研究会（招待講演）2017年、広州，中国（Jinan University）

7. Shinsuke KISHIE, Yukichi Shimizu, Yukako Sakoguchi, Nanami Shiokawa 「Means to count noun in Japanese」アジア地理言語学第2回集会(東京外大AA研)(国際学会) 2017年02月10日、東京外国語大学(東京都府中市)
8. 岸江信介, 峪口有香子「言語地図の制作」語言地理類型論国際研討会(国際学会) 2016年08月23日、陝西師範大学,西安市,China
9. 岸江信介, 峪口有香子「日本における言語地理学とその応用例 大規模データの有効利用」第7回南漢語方言研究の理論実践検討会(国際学会) 2016年08月21日、陝西師範大学,西安市,China
10. 岸江信介, 峪口有香子「日本における言語地理学とその応用 資料編」第7回南漢語方言研究の理論実践検討会(国際学会) 2016年08月20日、賀州学院,賀州市,China
11. 林琳, 韓春紅, 岸江信介「中国5県言語地図における経年変化」Urban Language Seminar 14(国際学会) 2016年08月13日、Nankin, China
12. 塩川 奈々美, 峪口 有香子, 任 福継, 岸江信介「大阪市域の贈答場面における言語行動 テキストマイニングによる分析と全国調査との比較を通じて」Urban Language Seminar 14(国際学会) 2016年08月13日、Nankin, China
13. Shinsuke Kishie, Shuichi Matsunaga, Takashi Kirimura, Shin Abe, Kota Hattori, Yukako Sakoguchi 「Conducting Research on the Geographical Linguistics by Utilizing the Data Comprising Twitter Postings」"New Ways of Analyzing Variation Asia-Pacific Region 4 (NWAV-AP4)"(国際学会) 2016年04月23日、Chiayi,Taiwan
14. Shinsuke Kishie, Yuukichi Shimizu, and Yukako Sakoguchi 「Dialects associated with the word Ine (milk) in Japanese」アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究会、2016年02月29日~2016年03月01日、東京外国語大学(東京都府中市)
15. 真田信治「砺波地方の方言について」となみルネッサンス・公開シンポジウム、2016年02月21日、となみ散居村ミュージアム(富山県砺波市)
16. 岸江信介「私の方言研究」徳島県シルバー大学校(招待講演) 2016年02月12日、徳島県郷土文化会館(徳島県徳島市)
17. 真田信治「Vernacular の記述について - 個人語彙における基底層 -」NINJAL コロキウム(招待講演) 2016年02月02日、国立国語研究所(東京都立川市)
18. Shinsuke Kishie, Yuukichi Shimizu, and Yukako Sakoguchi 「Dialects associated with the word Ine (rice) in Japanese」アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究会、2015年12月19日~2015年12月20日、東京外国語大学(東京都府中市)
19. 竹内史郎・松丸真大「関西方言の格標示のとりたて性と分裂自動詞性」日本言語学会第151回大会ワークショップ「日本語方言のケースマーケティングのとりたて性と分裂自動詞性」 2015年11月28日~2015年11月29日、名古屋大学(愛知県名古屋市)
20. 真田信治「接触地理言語学の展望 - 「方言圏論」の陥穽を超えて -」東アジア言語地理学国際シンポジウム(招待講演)(国際学会) 2015年11月08日、富山大学人文学部(富山県富山市)
21. 岸江信介・峪口有香子「ツイッターデータを利用した言語地理学的研究」東アジア言語地理学国際シンポジウム(国際学会) 2015年11月07日、富山大学人文学部(富山県富山市)
22. 中井精一「魚名の地域バリエーションと分布の特徴」東アジア言語地理学国際シンポジウム(国際学会) 2015年11月07日、富山大学人文学部(富山県富山市)
23. 真田信治「海を渡った日本語 - アジア太平洋に残存することば -」第33回 平城ニュータウン文化祭講演会(招待講演) 2015年11月01日~2015年11月03日、奈良市北部会館市民文化ホール(奈良県奈良市)

24. 峪口有香子、桐村喬、岸江信介「ツイッター投稿データにもとづく「気づかない方言」の分布解明」日本語学会 2015 年度秋季大会、2015 年 10 月 31 日～2015 年 11 月 01 日、山口大学（山口県山口市）
25. 真田信治「日本語再編成の現場から - 宜蘭クレオールの語彙調査報告 - 」第 327 回 日本近代語研究会（招待講演）、2015 年 10 月 30 日、パルトピアやまぐち（山口県山口市）
26. Shinsuke Kishie, Yuukichi Shimizu, and Yukako Sakoguchi「Dialects associated with the word Taiyou (Sun) in Japanese」アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究会、2015 年 10 月 03 日～2015 年 10 月 04 日、東京外国語大学（東京都府中市）
27. 竹内史郎・松丸真大「本州方言における他動詞文の主語と目的語を区別するストラテジー 関西方言と宮城県登米方言の分析」国立国語研究所共同研究プロジェクト・科研費合同発表会「日本語のアスペクト・ヴォイス・格」2015 年 8 月 22 日、国立国語研究所（東京都立川市）
28. 峪口有香子、馬兄根、桐村喬、岸江信介「ツイッター投稿データによる方言研究の有効性を探る」13th Urban Language Seminar（国際学会）2015 年 08 月 10 日～2015 年 08 月 13 日、Shaanxi Normal University(Shaanxi, China)
29. 中井精一「日本の言語政策と敬語運用能力」、Sinposio Internacional de Lingua Japones como Lingua Global（国際学会）2015 年 8 月 10 日、Sao Paulo, Brasil
30. 松丸真大「富山県庄川流域における疑問表現の分布」、言語地理学フォーラム、2015 年 6 月、国立国語研究所（東京都立川市）

〔図書〕（計 8 件）

- 2018 年、
1. 岸江信介・塩川奈々美編、徳島印刷『近畿方言における配慮表現 研究成果報告書（4）』2018 年、100 頁。
2. 岸江信介・塩川奈々美編、徳島印刷『近畿方言における配慮表現 研究成果報告書（3）』120 頁。
3. 真田信治監修・岸江信介・中井精一・西尾純二・松丸真大編著、ひつじ書房『関西弁事典』2018 年、604 頁。
4. 岸江信介・塩川奈々美編、徳島印刷『近畿方言における配慮表現 研究成果報告書（2）』2017 年、129 頁。
5. 岸江信介、清水勇吉、峪口有香子、塩川奈々美編、徳島印刷『近畿言語地図』2017 年、162 頁。
6. 岸江信介編、徳島印刷『近畿方言における配慮表現 研究成果報告書（3）』2016 年、282 頁。
7. 中井精一、富山大学日本語学研究室、『神通川流域流域言語地図』、2016 年、70 頁。
8. 真田信治、桂書房、『変わりゆく時見るごとに - 私のライフステージ - 』、2016 年、183 頁。

〔その他〕

ホームページ等

平成 27-29 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）「近畿方言における配慮表現の研究」  
課題番号：15H03211

URL (<https://1431320719.jimdo.com/研究活動/近畿方言における配慮表現/>)

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：真田 信治

ローマ字氏名：( SANADA, Shinji )

所属研究機関名：奈良大学

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：00099912

（平成27年度）

研究分担者氏名：中井 精一

ローマ字氏名：( NAKAI, Seiichi )

所属研究機関名：富山大学

部局名：人文学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：90303198

（平成27年度-平成29年度）

研究分担者氏名：西尾 純二

ローマ字氏名：( NISHIO, Junji )

所属研究機関名：大阪府立大学

部局名：人間社会システム科学研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：60314340

（平成27年度-平成29年度）

研究分担者氏名：松丸 真大

ローマ字氏名：( MATSUMARU, Michio )

所属研究機関名：滋賀大学

部局名：教育学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：30379218

（平成27年度-平成29年度）

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：鳥谷 善史

ローマ字氏名：( TORITANI, Yoshifumi )

研究協力者氏名：峪口 有香子

ローマ字氏名：( SAKIGUCHI, Yukako )

研究協力者氏名：清水 勇吉

ローマ字氏名：( SHIMIZU, Yuukichi )

研究協力者氏名：塩川 奈々美

ローマ字氏名：( SHIOKAWA, Nanami )